



ステキな人が集い、ステキな街になる

柏の葉スタイル News



Vol.6

UDCK ニュースレター 2009年10月号

LKCC ~Leaf of Kashiwa Climbing Club~

街のクライミングウォールが地域住民の交流拠点に



ららぽーと柏の葉の中庭にそびえ立つ高さ約12mのクライミングウォール。地域住民にクライミングを通じたコミュニケーションを楽しんでもらいたいと、街に提供されたこのウォール。運営するのは、非営利のボランティア組織「LKCC」。気軽に参加できる体験会の参加費は300円という破格の安さ。参加者とともに、運営に携わるメンバーも拡大しており、新たな地域コミュニティのあり方として注目を集めています。

年齢・性別・体力、関係なし!

フリークライミングは、自分の手足だけを頼りに壁をよじ登っていくスポーツ。腕力のある大人だけが楽しめるスポーツと思われがちですが、それは誤解。体力だけでなく、バランス感覚や体の柔軟性、そして「どのようなルートで登るか」という戦略が重要となり、頭と体全身を使います。子どもから高齢者まで、自分なりの目標を設定してチャレンジすることができ、性別・年齢・経歴を超えた仲間が広がります。

このフリークライミングを通じて、地域コミュニティの形成を図ろうと組織されたのがLKCC。NPO法人「健康まちづくりネットワーク」(千葉大学環境健康フィールド科学センター内)のもとに発足し、クライミングウォールの管理とイベントの実施、技術安全指導を行っています。

毎月第3日曜日に「体験会」、毎週土曜日に「親子教室」、金曜日に「レディース&シニア講習会」を開催。LKCCのベテランクライマーが丁寧に教えてくれるた

め、初心者にも大人気。これまでに下は4歳の子どもから、上は75歳の高齢者までが参加しています。

命綱がつなぐ信頼関係

フリークライミングは、登る人(クライマー)と、命綱を地上で支える人(ビレイヤー)とがペアになって楽しむスポーツ。お互いが責任をもって安全を確保するため、信頼関係の強いコミュニケーションが生まれます。「クライミングは決して孤独なスポーツではありません。クライマーは下からの応援が励みになる。クライマーが登頂すれば、ビレイヤーも一緒に喜びを共感できる」と語るのは、LKCCの高梨美奈さん。

親子教室では、親が子どものビレイヤーとなります。はじめて子どもの命綱を握る親は、不安

で手元が震えるケースも多いとか。それでも、何度か練習するにつれて、子どもに声援やアドバイスを送る立派なビレイヤーに成長します。

ただ、LKCCの渡辺敏規さんは「下から応援するだけでなく、親も実際に登ってほしい」と訴えます。登ってみることで、新たなチャレンジの大切さを実感し、子どもと同じ目線でコミュニケーションが図れるようになると思います。



目がすくむような高さにはじめは誰もが不安になる。その分だけ、頂上まで登りきったときの達成感は格別。



命綱を握るビレイヤーは常に真剣そのもの。「もう一息だよ、がんばろう!」とクライマーに声援を送る。

LKCC ~Leaf of Kashiwa Climbing Club~

教育現場としてのクライミング

最近フリークライミングは、チームビルディングやコミュニケーション教育にも効果的と注目されています。LKCCでも、子ども会、サークル活動、企業のイベント、研修、自治会など、様々な団体の参加を受け入れています。

「安全にみんなが楽しめるよう、参加者にはルールとマナーを尊重してもらっています。この心構えは、社会生活においても大切なものですから」と語るのは、LKCC創立メンバーの梶谷昌生さん。「その上で、参加者が自分の目標を設定し、失敗を恐れずにチャレンジし、達成したときの喜びをみんなで共有する。考える要素も多いですよ」

視覚障害者もチャレンジ

9月19日には、視覚障害者を対象とした体験スクールが開催されました。フリー

クライミングは、動かない岩を相手に、自分の力だけで課題解決を目指すもの。対戦型のボールスポーツとは異なり、自らのペースで楽しめるため、視覚障害者にとって最適なスポーツなのだとか。

今回の体験スクールを共催したNPO法人モンキーマジックの代表を務める小林幸一郎さんも、視覚障害者のひとり。「視覚障害者も一般健常者と一緒と同じルールで楽しむことができるため、双方の交流や理解促進につながる。一見無理と思われることにチャレンジし達成することは、視覚障害者にとって大きな自信につながる」と小林さんは説明してくれました。

筑波技術大学の学生で、今回の体験スクールに参加した有安諒平さんは、「試行錯誤して目標に進むところが面白い。ロープで支えてくれる仲間がいるのが励みとなります。今後も参加したい」と、フリークライミングの虜になった様子。同じ大学に通う伊藤瑛里香さんは、今回がフリークラ



体験会では、スタッフが丁寧に教えてくれるので初心者でも安心。

イミング初体験にもかかわらず、頂上まで登りきってしまったツワモノ。「はじめは怖くて不安だったけど、みんなが下から声かけてくれたおかげで登りきれた」と、達成の喜びを笑顔で語ってくれました。視覚障害者向けの体験スクールは、11月14日、翌年2月27日にも開催される予定です。

LKCC の体験会などへの参加申し込み、問い合わせは
[E-MAIL] LKCC@hotmail.co.jp
[WEB サイト]
<http://www.lala-climbingclub.com/>



高梨 美奈

LKCCの発起人である千葉大学の徳山郁夫教授に誘われ、LKCC に加入。体験会では、スタッフとして市民にクライミングの楽しさを伝えている。LKCC 以外では、柏市人材育成事業にファシリテーターとして関わるほか、健康運動指導士として主に中高齢者の健康をサポートしている。

キーパーソン・トーク

フリークライミングは、一見すると危険なスポーツ。そんな設備をショッピングセンターの中につくり、さらに街に開放するという試みは前例がなく、はじめは反対意見もありました。ただ、柏の葉キャンパス地区は大規模開発が進み、新しい街づくりが積極的に行われている場所であり、地域コミュニティを創る重要性は皆さんの共通認識でした。そのため、私たちの活動を理解し応援してくれる方々も多く、今ではこのクライミングウォールが、市民のコミュニケーション装置として機能し、この街のシンボルとなっています。

この活動を継続させていくために、日頃から安全面には特に気をつけています。ウォールの整備、点検、クライミング時の安全確保、ショッピングのお客様との間の交通整理などを、LKCCのメンバー

が分担して行っています。ウォールを使用する際は必ず、LKCCメンバーが2人以上いることを条件としています。

LKCCは現在20人程度の小さな組織ですが、体験会などウォールを使用できる機会も限られていますが、将来的にはメンバーを増やして、ウォールを常時使用できる状態にしていきたいと思っています。そのためには、地域の方々のさらなる理解と協力、そして参加が不可欠となります。

体験会ではじめてクライミングに触れ、その楽しさの虜となって継続参加していた人が、今ではLKCCのメンバーとして運営にも携わってくれている、そんな流れが最近増えています。ボランティアと聞くと、なんだか堅苦しく大変なイメージが強いですが、LKCCは「みんなで一緒に楽しむ」が基本姿勢です。1人でも多くの方に参加してもらい、クライミングを楽しむネットワークを拡大させていきたいと思っています。

□編集後記□

LKCCのメンバーは皆さん、スラリとしたスタイル。「クライミングは全身を使うから、体が引き締まるんだよ」と、そのヒミツを教えてくださいました。まちづくりのキーワードに“健康・交流”を掲げている柏の葉にとって、まさにピッタリのスポーツですね。(小林)

●このニュースレターに関するお問い合わせ先

柏の葉アーバンデザインセンター (UDCK) 広報担当 小林、蛭川
〒277-8518 千葉県柏市若柴字元堂178-3 柏の葉キャンパス駅前148街区3画地
TEL 04-7140-9686 FAX 04-7140-9688
E-MAIL ma-kobayashi@udck.jp WEB <http://www.udck.jp>

柏の葉
アーバン
デザイン
センター

UDCK